

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																
北海道エコ・動物自然専門学校	平成10年4月1日	佐藤 俊	〒061-1373 北海道恵庭市恵み野西5丁目10-4 (電話) 0123-36-2311																
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																
学校法人産業技術学園	昭和63年1月5日	宮川 藤一郎	〒061-1396 恵庭市恵み野北2丁目12番1 (電話) 0123-36-8119																
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士															
商業実務	商業実務 専門課程	動物看護師学科	平成6年文部科学大臣告示 84号																
学科の目的	少子高齢化が進み、ほんの心の豊かさが求められる現在、動物と共生することの大切さが再認識されている。獣医師とともに協働し、動物の保健衛生、人と動物の公衆衛生を担いつつ愛護精神を体得した動物看護師が求められている。本校では、北海道という地域性を生かし、小動物のみならず産業動物や野生動物への理解を深め、日々を動物と共に学ぶ現場主義の職業実践教育を通じて人間社会と動物たちをつなぐ懸け橋となる人材を養成する。																		
認定年月日	平成23年4月1日																		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技												
2年	昼間	2400時間	180時間	110時間	1260時間	0時間	0時間												
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数														
80人	28人	0人	3人	13人	16人														
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 定期試験・平常点評価 49点以下不合格、50点以上合格 A:80点以上、B:60点台、C:50点台、D:40点台、E:39点以下															
長期休み	■学年始:4月1日～4月3日 ■夏季:7月23日～8月16日 ■冬季:12月22日～1月8日 ■学年末:3月5日～3月31日		卒業・進級条件	必修科目の履修 必修選択科目の必要時間数の履修 試験による合否判定 進級・卒業認定会議での学校長認定															
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 年度初めに個人面談実施し学習面・生活面・健康面等の不安に応じて随時面談や指導を行い、必要に応じて保護者も含めて対応		課外活動	■課外活動の種類 ・避難訓練・学生総会・学園祭・体育祭 等 ■サークル活動: 有															
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(平成28年度卒業生) 動物病院 ■就職指導内容 担任就職指導 就職担当者面談 動物業界企業説明会の開催 ■卒業生数 18 人 ■就職希望者数 18 人 ■就職者数 17 人 ■就職率 : 94 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 94 % ■その他 ・進学者数: 0人 ・卒業後に就業 1人 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>動物看護師統一認定機構認定動物看護師</td> <td>③</td> <td>17人</td> <td>15人</td> </tr> <tr> <td>公益財団法人実務技能検定協会 サービス接客検定3</td> <td>③</td> <td>20人</td> <td>19人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	動物看護師統一認定機構認定動物看護師	③	17人	15人	公益財団法人実務技能検定協会 サービス接客検定3	③	20人	19人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																
動物看護師統一認定機構認定動物看護師	③	17人	15人																
公益財団法人実務技能検定協会 サービス接客検定3	③	20人	19人																
中途退学の現状	■中途退学者 0名 ■中退率 0% 平成28年4月1日時点において、在学者38名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者36名(平成29年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の原因 進路変更(転校) ■中退防止・中退者支援のための取組 入学時および進級時の学生サポートアンケート、スクールカウンセラー・進路アドバイザーによる転科転校の実施。モチベーションの維持と向上のため、学外研修等の諸行事を効果的に配置。担任、教務部長および学校長面談を実施し、多角的な現状把握と早期問題発見に取り組む。																		
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: <input checked="" type="radio"/> 有・無 兄弟姉妹・保護者特待制度、卒業生特待制度、単位減免制度、近隣高校特待制度、近隣在住特待制度 ■専門実践教育訓練給付: <input checked="" type="radio"/> 給付対象・非給付対象 H28年度給付実績者なし																		
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: <input checked="" type="radio"/> 有・無																		
当該学科のホームページURL	https://www.heco.ac.jp/department/nurse/																		

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
 企業・業界の求める知識・技術が教育課程に反映されるように業界の動向に関して情報交換を行い、教育課程の改善および改定を定期的実施することを目的とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
 動物看護師統一認定機構コアカリキュラムを職業実践専門課程の視点で発展的に運営。学内講義実習、現場での実習、卒業教育や日々発展する獣医療のニーズと動物看護師としての倫理観を導入する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
重信 隆夫	一般社団法人楓会 日本獣医中医薬学院 北海道支部	平成27年9月1日～平成29年8月31日(2年)	①
近藤 幸司	よつば動物病院 医院長	平成27年9月1日～平成29年8月31日(2年)	③

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(開催日時)

平成28年度 第2回 平成29年1月29日 16:00～17:00 エコ図書室

平成29年度 第1回 平成29年8月 2日 14:30～15:15 エコ図書室

平成29年度 第2回 平成30年2月18日 16:00～17:00 エコ図書室 開催予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

特別講義実習、獣医師勉強会の学内勉強会開催と学生とのコラボレーション、現場実習での評価項目改変、卒業生対応、業界動向と要望のカリキュラム反映。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

実践的かつ専門的な職業教育の専攻分野の職業に係る勤労観及び継続的な学習意欲等の醸成、並びに動物看護師学科の教育課程の専攻分野の実務に必要な知識、技術、及び技能の修得又は向上に資する教育等を通じて、学科の

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

動物保護施設の運営手法・動物飼育技術・知識の習得および乙の業務全般

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
動物保護実習	犬猫を中心とした保護動物の飼育看護技術を現場で習得し、保護団体の運営、行政およびボランティアとの関わりを学ぶ。	認定特定非営利活動法人 HOKKAIDOしっぽの会

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
 在籍している学生たちも多様化しており一人一人を入学から卒業・就職まで導くために、職員それぞれがカウンセリングマインドを持つことが必要とされている。そのために指導と教授力の向上・カウンセリング力の向上を目的とする。また、専門技術知識を伝えるに当たり常に業界の新しい情報を入手し、知識技術の向上を図る必要があり、常に研鑽を続けることを目的とする

(2)研修等の実績
 ①専攻分野における実務に関する研修等
 8月21日 一般社団法人日本小動物獣医師会・日本動物看護職協会主催セミナー 1名
 10月15日 野生動物救護研究会セミナー 1名
 11月5日、6日 北海道小動物獣医師会年次大会 1名
 ②指導力の修得・向上のための研修等
 4月12日 滋慶学園北海道講師研修会 3名
 8月22日 一般社団法人全国動物教育協会セミナー 1名

(3)研修等の計画
 ①専攻分野における実務に関する研修等
 10月15日 札幌小動物獣医師会セミナー
 10月21日 野生動物救護研究会セミナー
 11月17日～19日 動物臨床医学会
 11月4日、5日 北海道小動物獣医師会年次大会
 ②指導力の修得・向上のための研修等
 ・平成29年10月 滋慶教育科学研究所マネジメント研修
 ・平成29年12月 滋慶教育科学研究所学会
 ・平成30年1月 北海道私立専修学校各種学校連合会動物部会研修

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針
 学校法人産業技術学園が設置する専修学校における教育・運営活動等の状況について、自らが行う点検及び評価の項目並びにその実施体制等について検証し、問題点を把握の上目標を明確化し、必要な支援・改善を行うことにより、教育水準の向上と質の保証を図ることが重要である。また多くの外部評価を受けることにより学校評価の精度を高め、客観性を持った評価による改善を目指したい。特に卒業生、保護者、地域住民、企業等との相互理解と連携を確立し、学校の説明責任を果たしていくよう努めることにより学校の組織力を高め地域に支えられる学校づくりにも貢献したい。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	1-1理念・目的・育成人材像は定められているか
(2)学校運営	2-4運営方針は定められているか 2-5事業計画は定められているか
(3)教育活動	3-10各学科の教育目標、育成人材像はその学科に対応する業界の
(4)学修成果	4-19就職率(卒業生就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が
(5)学生支援	5-23就職に関する体制は整備されているか
(6)教育環境	6-31施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか
(7)学生の受入れ募集	7-34学生募集活動は適正に行われているか
(8)財務	8-38中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか
(9)法令等の遵守	9-42法令、設置基準などの遵守と適正な運営がなされているか
(10)社会貢献・地域貢献	10-46学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか
(11)国際交流	11-48グローバル人材の育成に向けた国際交流などの

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況
 自己点検自己評価については、「計画」「実践」「評価」の一連のサイクルを行うために、学校評価ガイドラインに設定した目標や、具体的な計画の実践状況について学校評価委員会を開催し懇談を通じての意見や要望を聴取する。聴取した内容は、学校運営に関する事項は、学内の学校長、副校長、教務部長、部署長の会議である「運営会議(定例会毎週1回)」にて運営の見直し並びに次年度事業計画修正への検討を行い12月には改善計画を含めた事業計画を策定する。一方教育活動については教員及び学科長で構成される学内組織である「教育改革委員会(定例会月1回開催)」にて検討し、1月には次年度カリキュラムの改定にむけての検討ならびに日々の授業運営の改善を実施している。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年9月1日現在

名前	所属	任期	種別
佐藤翔太	卒業生(株式会社北海道造園コンサルタント 副部長)	平成29年9月1日～平成31年8月30日(2年)	卒業生代表
要害 利江	ペット学科保護者	平成29年9月1日～平成31年8月30日(2年)	保護者代表
大場 真哉	帯広大谷高等学校 教諭	平成29年9月1日～平成31年8月30日(2年)	高等学校関係者
山田 裕一郎	山田アートフィルム	平成29年9月1日～平成31年8月30日(2年)	地域関係者
近藤 幸司	よつば動物病院 医院長	平成29年9月1日～平成31年8月30日(2年)	業界関係者
吉田 俊介	株式会社ノーザンホースパーク 取締役	平成29年9月1日～平成31年8月30日(2年)	業界関係者
樋原 均	株式会社ペットハウステン・テン 代表取締役	平成29年9月1日～平成31年8月30日(2年)	業界関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
 (例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
 (ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他() ()
<https://www.heco.ac.jp/disclose-information/>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等の学校関係者に対しては、業界視点を越えた教育施設としての社会活動からの評価視点を得ることが出来るため、これらを学校教育の客観的な評価、運営での業界目線、地域目線、保護者目線、卒業生目線、そして行政目線から第三者の外部評価と意見をいただく委員会として位置づけをしている。したがって、その情報提供は、学科ごとに設けた

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	(1) 学校の概要、目標及び計画
(2) 各学科等の教育	(2) 各学科等の教育
(3) 教職員	(3) 教職員
(4) キャリア教育・実践的職業教育	(4) キャリア教育・実践的職業教育
(5) 様々な教育活動・教育環境	(5) 様々な教育活動・教育環境
(6) 学生の生活支援	(6) 学生の生活支援
(7) 学生納付金・修学支援	(7) 学生納付金・修学支援
(8) 学校の財務	(8) 学校の財務
(9) 学校評価	(9) 学校評価
(10) 国際連携の状況	(10) 国際連携の状況
(11) その他	(11) その他

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

<https://www.heco.ac.jp/disclose-information/>

授業科目等の概要

(商業実務専門課程 動物看護師学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			講読演習	コミュニケーション技法、学習方法、社会のしくみ、動物業界の特徴について学ぶ。	1前	30	1	○			○				
○			業界研究Ⅰ	動物関連団体現場訪問及び来校機会を通じて、双方向の意見交換を行い、自らの視野を広げる。	1前	15	1	○				○	○		
○			業界研究Ⅱ	動物関連団体現場訪問及び来校機会を通じて、双方向の意見交換を行い、見識を養う。	1後	15	1	○			○		○		
○			PCスタンダード	動物関連業界実務においても不可欠なワープロ、表計算、プレゼンテーションの基礎を習得する。	1前	30	1	○			○			○	
○			心理学	自己理解、相互依存等心理学の基礎を学び、自己と他者との関わりを通じて生きる力を養う。ペットロスに関しても学ぶ。	1後	30	1	○			○			○	
○			動物人間関係学	人と動物の絆の理念と動物介在活動、療法、教育など社会活動を理解し、人と動物の共生についての理解を深める。	2後	30	1	○			○			○	
○			クライアントエデュケーション	人と動物のより良い共生をめざし、専門職の観点から飼主指導に活かす。	2後	30	1	○			○			○	
○			動物飼育実習Ⅰ	実際に動物を世話することで観察力や福祉の精神を養い、衛生管理、備品管理、手順要領を考慮した行動を身につける。	1後	45	1			○	○			○	
○			動物飼育実習Ⅱ	犬の基本的な服従訓練法を理解できる。各種イベントや動物介在活動を通じて犬と人との関わりについて理解を深める。	2前	45	1			○	○			○	
○			動物飼育実習Ⅲ	動物の世話や飼育を通じて動物看護の正確性、迅速性、実践力、応用力及び問題解決能力を身につける。	2後	45	1			○	○			○	
○			院内コミュニケーションⅠ	接遇マナーの基本を修得し、サービスマインド、コミュニケーション、おもてなしの技能と心得を習得する。	1前	15	1	○			○			○	
○			院内コミュニケーションⅡ	動物関連業界に適した思いやりを基本とし、受付業務、院内コミュニケーション、電話応対を身につける。	1後	30	1	○			○			○	
○			院内コミュニケーションⅢ	動物関連業界に適した思いやりを基本とし、受付業務、院内コミュニケーション、電話応対を身につける。	1後	30	1	○			○			○	
○			動物福祉論	生命倫理を基本に人と動物が共生するために必要な倫理学の理念を身につける。	2前	30	1	○			○			○	
○			動物看護学	看護倫理、業務指針から、動物及び飼主に寄り添った動物看護実践能力と問題解決能力を身につける。	1前	15	1	○			○			○	

○		動物栄養学Ⅳ	基礎栄養素、個別栄養管理の知識を身につけ、未疾患動物の栄養指導ができるようになる。	2前	15	1	○			○									
○		動物栄養学Ⅴ	疾患病理を基本として特別療法食、個別栄養管理の知識を身につける。	2後	15	1	○			○									
○		動物医療関連法規	獣医療及び動物関連法規についての理解を深め、動物福祉と安全な社会づくりに貢献し専門職として遵守の精神を養う。	2後	30	1				○									
○		公衆衛生学	公衆衛生の基本的考え方を理解し、国民の健康増進、動物福祉、環境保全等に活かせる知識を身につける。	2後	30	1				○									
○		動物繁殖学	繁殖生理を理解し、性行動、妊娠、分娩及び避妊、去勢の知識を身につけ、助産と性別疾病予防に活かす。	2後	15	1	○												
○		動物行動学Ⅰ	発生から種類による犬猫の特徴を知り、学習理論、基本的行動様式を理解する。	1前	30	1				○									
○		動物行動学Ⅱ	しつけや問題行動について学び、アニマルウェルフェアに準じた動物の行動と人間社会との共存を図る。	1後	30	1				○									
○		飼養管理学Ⅰ	ウサギ、マウス、モルモット、鳥等のエキゾチックアニマルの生態、飼養管理、主な疾病等について学びます。	1後	30	1				○									
○		飼養管理学Ⅱ	実験動物、産業動物、展示動物の社会的役割、野生動物と環境保全、伴侶動物の生理生態適正飼育及び疾病を理解する。	2前	30	1				○									
○		臨床動物看護学Ⅰ	動物看護学を軸とし、倫理観を有した基礎看護技術および知識を修得し、看護観察、記録と報告について理解する。	2前	30	1				○									
○		臨床動物看護学Ⅱ	各疾病による身体的・精神状況から適切な看護法を考察する。	2前	30	1				○									
○		臨床動物看護学Ⅲ	各疾病による身体的・精神状況から適切な看護法を考察する。	2後	30	1				○									
○		動物入院管理	看護過程、計画、記録を元に入院動物の看護を学び、衛生管理およびアメニティを改善していく問題解決力を醸成する。	2後	30	1				○									
○		幼齢動物・老齢動物管理	新生子期から幼年期の管理、老齢期の管理、介護を理解し飼主に寄り添った在宅介護に活かす。	2後	30	1				○									
○		動物臨床検査学	検体を用いる検査と生体検査の目的と意識を理解し手技に活かす。	2後	30	1				○									
○		救急救命対応	エマージェンシーの見極めと、トリアージを理解し救急救命に活かす。	2後	15	1	○												
○		動物看護実習Ⅰ	獣医師との連携を通して、知識の実践を通じて診療現場で必要な観察力および看護法を身につける。	1前	45	1					○								
○		動物看護実習Ⅱ	動物看護師として、診療現場での正確性、迅速性、実践力、応用力及び問題解決能力を身につける。	1前	45	1					○								
○		動物看護実習Ⅲ	獣医師との連携を通して、知識の実践を通じて診療現場で必要な観察力および看護法を身につける。	1後	45	1					○								

○		動物看護実習Ⅳ	動物看護師として、診療現場での正確性、迅速性、実践力、応用力及び問題解決能力を身につける。	1後	45	1			○	○			○	
○		動物看護実習Ⅴ	グルーミング技術の修得および薬浴など動物看護師に求められる知識と技術を習得する。	2前	45	1			○	○			○	
○		動物臨床検査学実習Ⅰ	検査の基本を実践することで、現場に必要な検体および検査の意義を理解し、基本的手技を身につける。	1前	45	1			○	○			○	
○		動物臨床検査学実習Ⅱ	学内飼育動物の検査実務と手技を確実にこなせるようになる。検査報告を理解し、看護および検査ができるようになる。	1前	45	1			○	○			○	
○		動物臨床検査学実習Ⅲ	学内飼育動物の検査実務と手技を確実にこなせるように、主体的に検査報告ができるようになる。	1後	45	1			○	○			○	
○		動物臨床検査学実習Ⅳ	検査実務を通じて、作成した検査報告を飼主が理解できるように伝えられる。また、検査業務における問題発見力を養う。	2前	45	1			○	○			○	
○		動物臨床検査学実習Ⅴ	検査実務を通じて、診療現場での正確性、迅速性、実践力、応用力及び問題解決能力を身につける。	2後	45	1			○	○			○	
○		外科動物看護実習Ⅰ	基本的な外科手術の流れを理解し、手術準備、麻酔モニタリング、手術及び周術期の動物管理を身につける。	2前	45	1			○	○			○	
○		外科動物看護実習Ⅱ	外科業務における診療現場での正確性、迅速性、実践力、応用力及び問題解決能力を身につける。	2後	45	1			○	○			○	
○		総合臨床実習Ⅰ	診療現場での臨床経験からより実践的な看護と専門職としての意識を身につける。	1後	45	1			○				○	
○		総合臨床実習Ⅱ	診療現場での臨床経験からより実践的な看護と専門職としての意識、実務力およびコミュニケーション力を身につける。	2前	90	2			○				○	
○		トリミング実習Ⅰ	グルーミングの基本を習得し、自らおよび対象犬の安全確保に配慮できる。	1前	90	2			○	○			○	
○		トリミング実習Ⅱ	動物看護師に必要なグルーミング技術の基礎を習得する。	1後	90	2			○	○			○	
○		トリミング実習ⅢA	グルーミング技術をさらに高めるとともに、トリマーに必要なカット技術の基礎を習得する。	2前	45	1			○	○			○	
○		トリミング実習ⅣA	愛玩動物飼養管理士に必要な倫理及び法律等を学ぶ。	2後	45	1			○	○			○	
○		動物保護実習	野生鳥獣保護及び保健所等の保護犬猫の飼育看護技術を習得する。現場での実習も併せて行う。	2前	45	1			○				○	○
○		飼養管理士講座Ⅰ	愛玩動物飼養管理士に必要な倫理及び法律等を学ぶ。	2前	30	1			○				○	
○		飼養管理士講座Ⅱ	愛玩動物飼養管理士に必要な動物全般の飼育管理法および応急処置など健康管理の基礎を学ぶ。	2後	30	1			○				○	
○		トリミング実習ⅢB	グルーミング技術をさらに高めるとともに、トリマーに必要なカット技術の応用力を養う。	1後	45	1			○	○			○	

○	トリミング実習IVB	グルーミング技術をさらに高めるとともに、トリマーに必要なカット技術の応用力を養う。	2 前	45	1			○	○			○
○	ドッグトレーニング	犬の訓練の基礎及び応用を実践的に学ぶ。	1 後	45	1			○	○			○
合計		74 科目	2400時間以上（73単位以上）									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
各授業の出席率が75%をこえること/定期試験等に合格すること/ 各年次の規定時間数を出席すること		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	30週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。